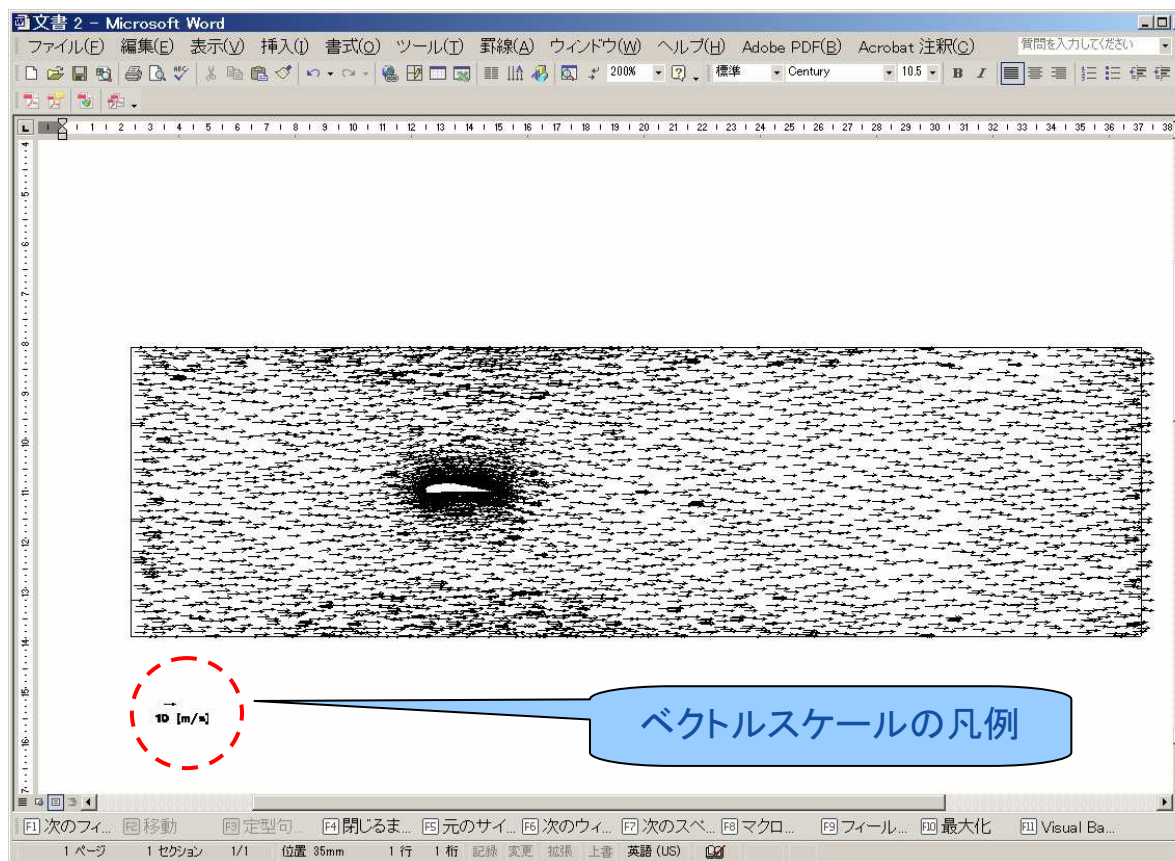


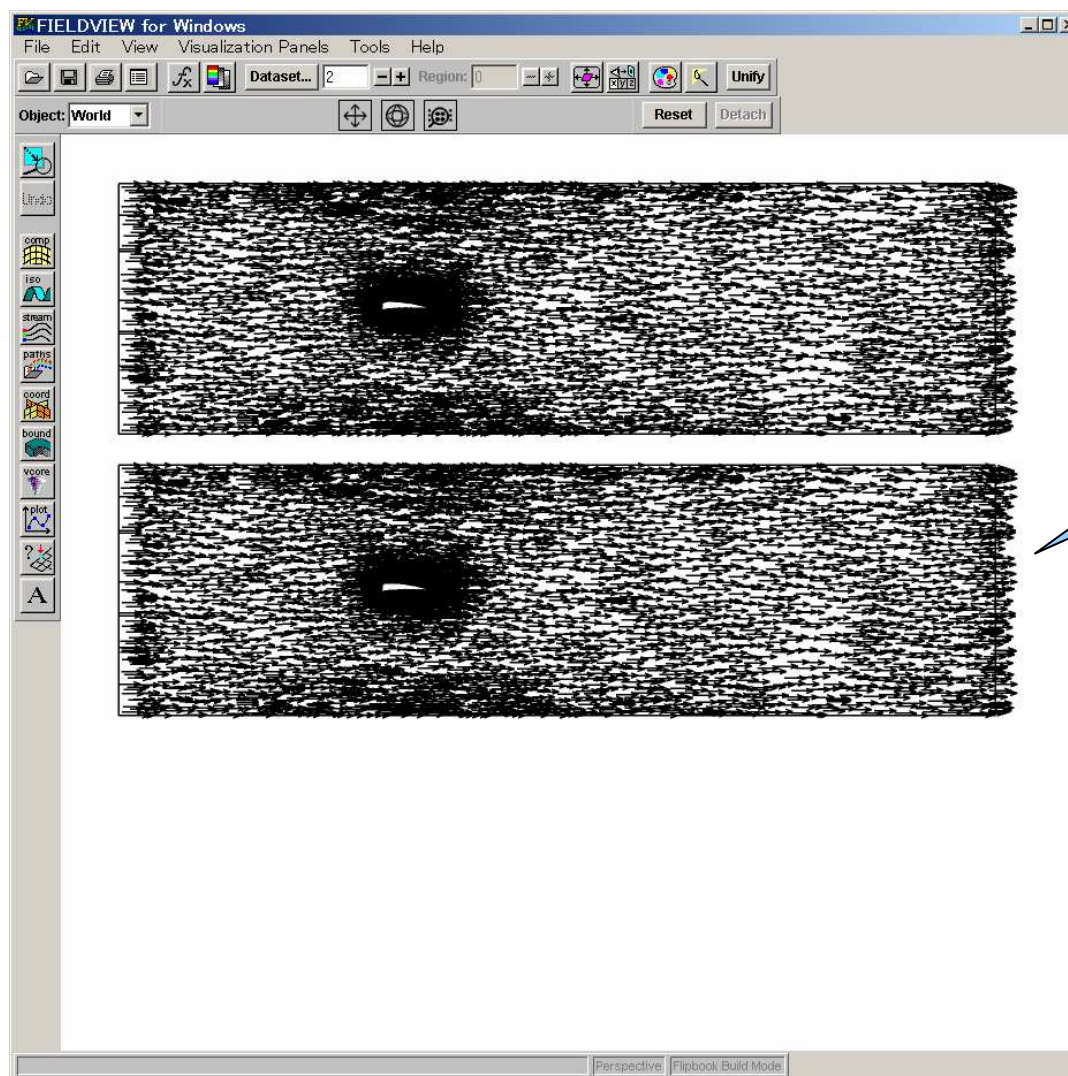
FieldView の基本機能では、ベクトルスケールの凡例を表示することができませんが、以下の手順で自作することができます。

**\* 本資料を読む前に FAQ HT016 もご参照ください。**



## HT029: ベクトルスケールの凡例を作成する

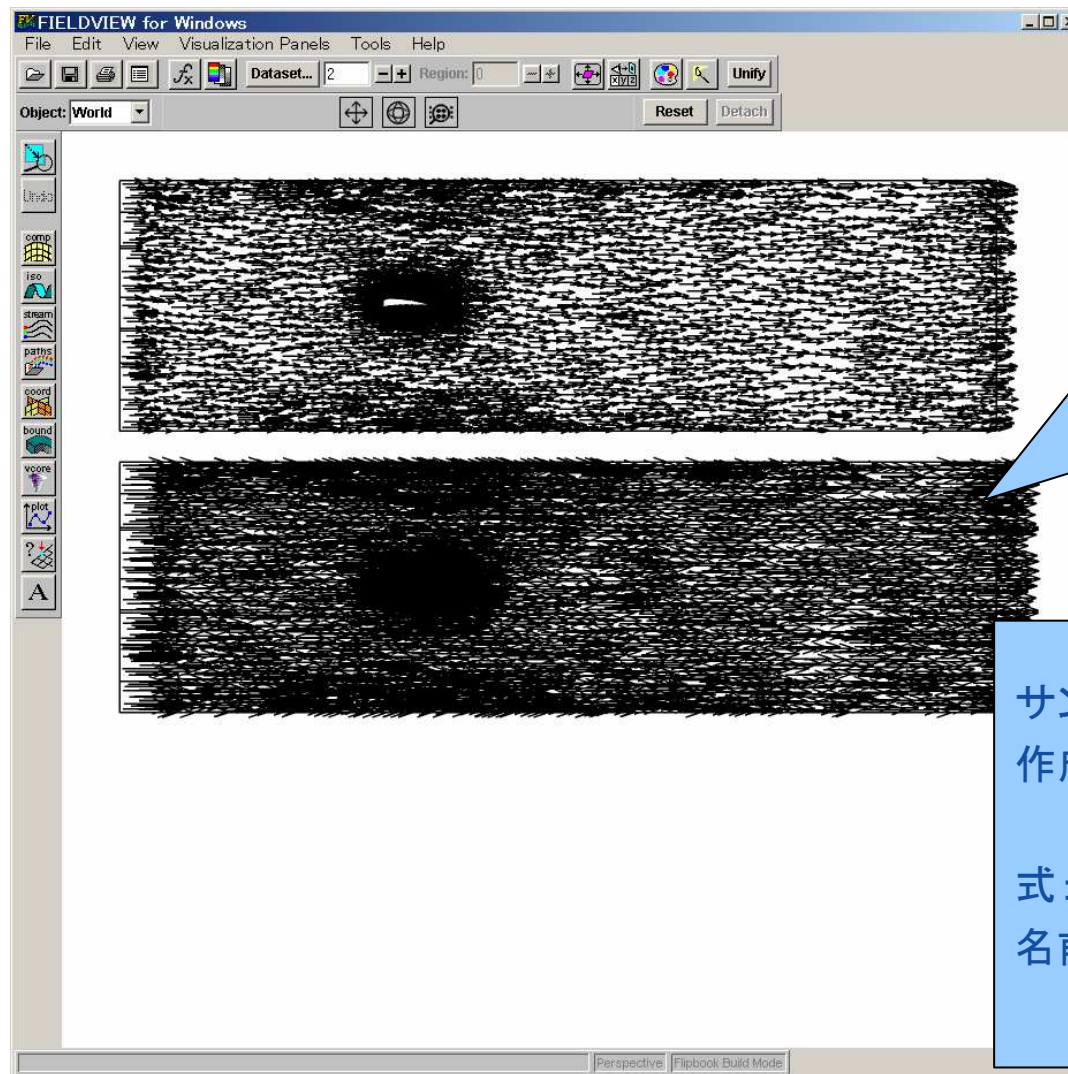
**FIELDVIEW**



同じデータセットを  
append 読み込み  
\* 表示上 translate

## HT029: ベクトルスケールの凡例を作成する

**FIELDVIEW**



Dataset2 について、  
ベクトルデータを差し替える

X- 方向 → 一律 1 [m/s]  
Y- 方向 → 一律 0 [m/s]  
Z- 方向 → 一律 0 [m/s]

サンプルファイルでの  
作成関数は

式:  $\text{UnitX} \cdot 1 + \text{UnitY} \cdot 0 + \text{UnitZ} \cdot 0$   
名前: X-vec

FieldView サポートページの

“HT016 複数データセット間でベクトルスケールを統一させる方法”

<http://www.vinas.com/jp/support/fieldview/howto/ht016.htm>

の内容を参照する



## HT029: ベクトルスケールの凡例を作成する

HT016 の手法に従い、以下を整理します。

スケール量  $N$  をデータセット毎に算出することで、ベクトルスケールを調整できます。

スケール比:  $N_1/N_2$

$N_1$ ,  $N_2$  はそれぞれ、dataset 1, dataset2 のスケール量です。

サンプルデータで、以下、数字を比較。

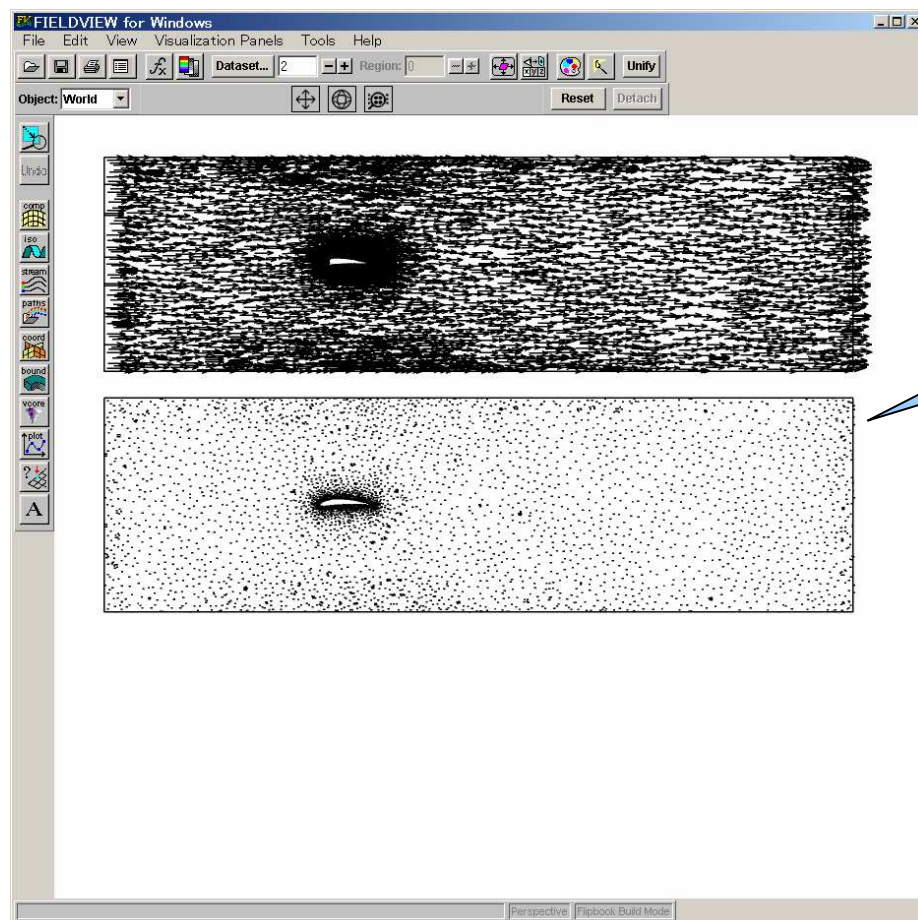
	$ u _{\max}$	$ v _{\max}$	$ w _{\max}$	$N$
dataset 01	13.2933	1.276	5.33906	19.90836
dataset 02	1	0	0	1

$$\begin{aligned} \text{スケール比: } N_1/N_2 &= 19.90836/1 \\ &= \mathbf{19.90836} \end{aligned}$$

## HT029: ベクトルスケールの凡例を作成する

FIELDVIEW

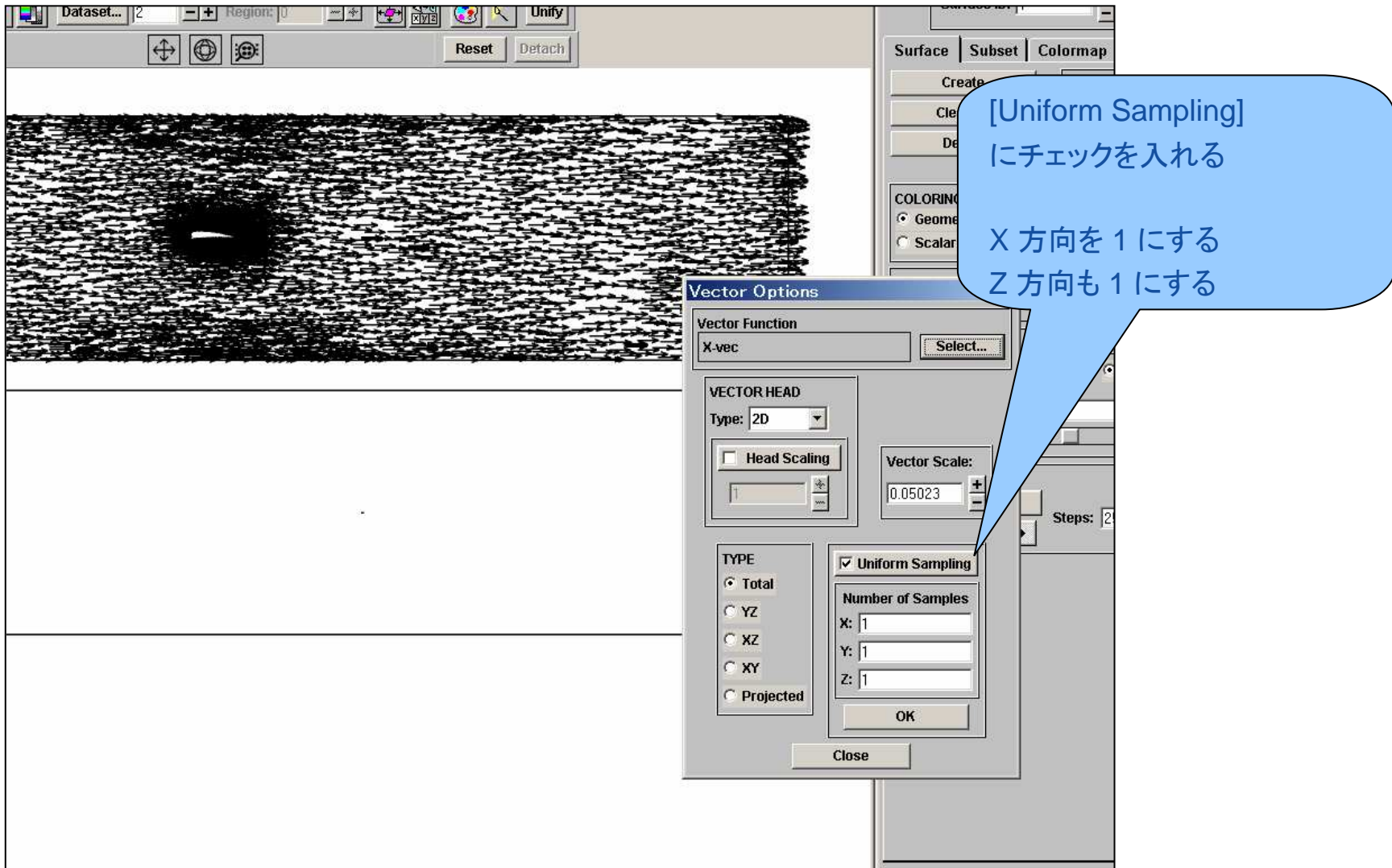
サンプルデータでは dataset01 側の ベクトルスケールを **19.90836** に調整、  
あるいは dataset02 側のベクトルスケールを **0.050230** に調整します

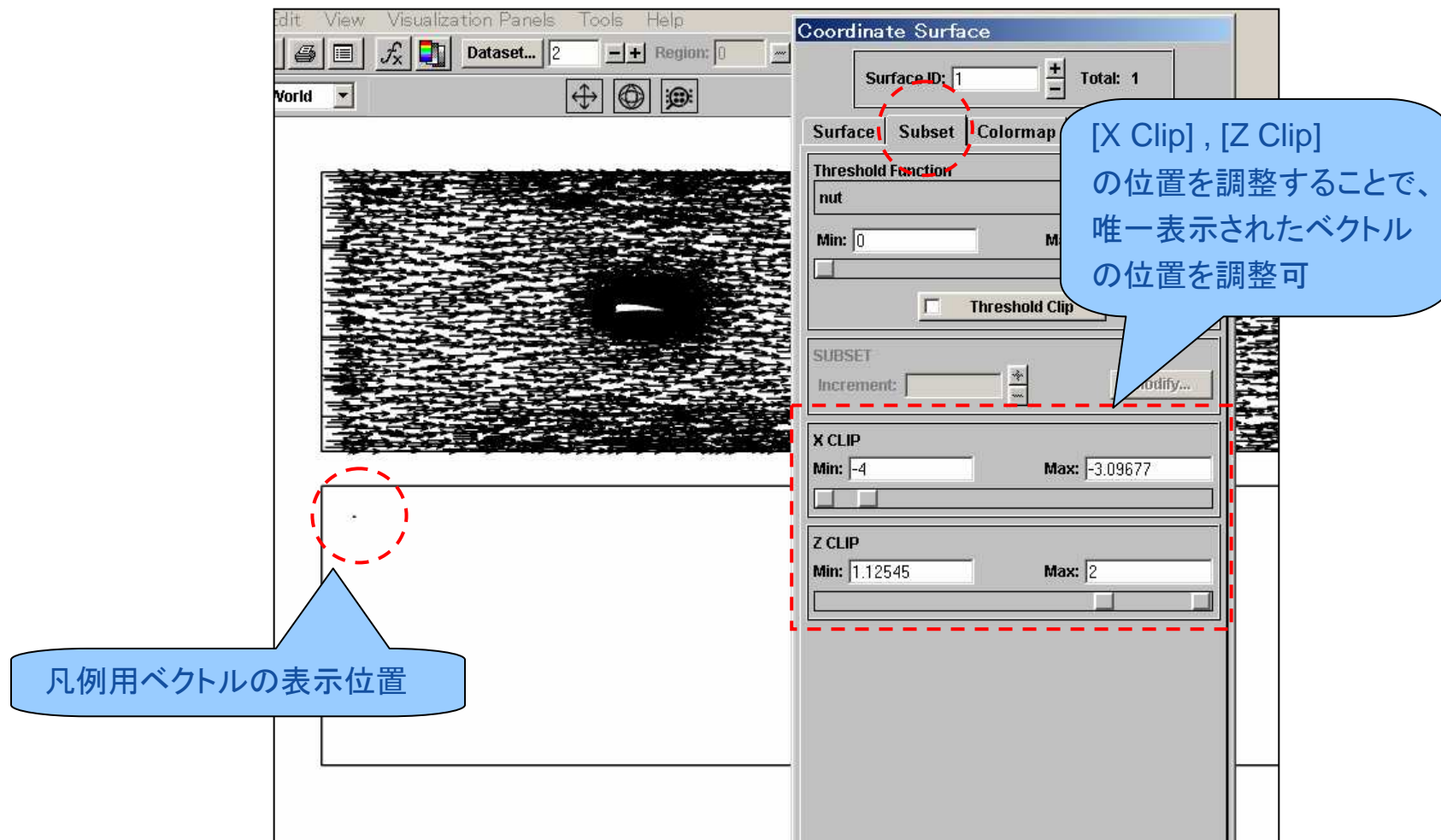


Dataset2 について、  
ベクトルスケールを  
0.05023  
にした状態

## HT029: ベクトルスケールの凡例を作成する

FIELDVIEW

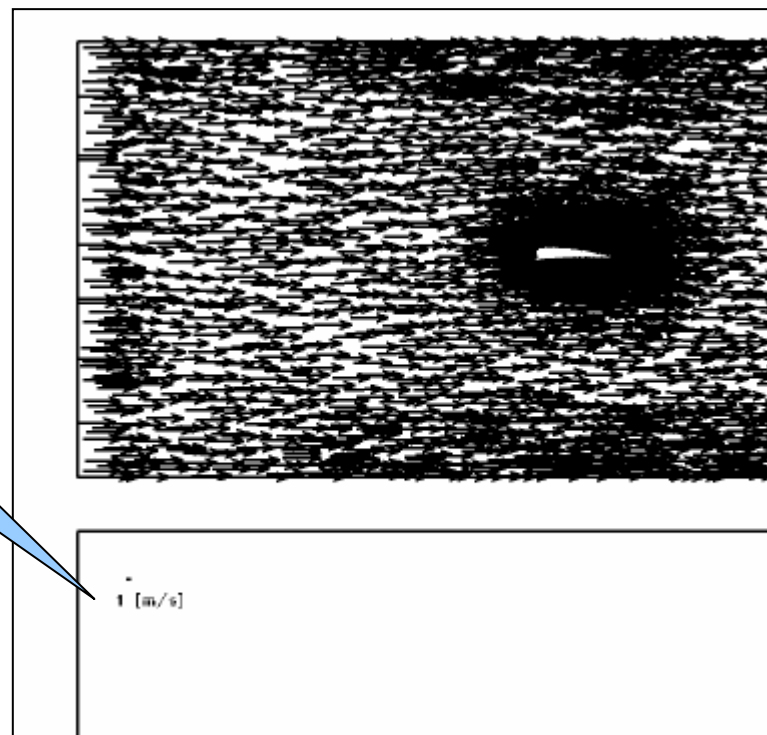






Annotation 機能で

“ 1 [m/s] ”  
のような文字をいれておく



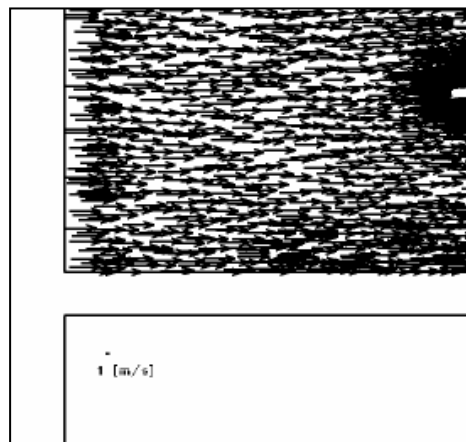
## HT029: ベクトルスケールの凡例を作成する

前ページの状態では、凡例が小さすぎるので、

凡例用ベクトル関数を  $\text{UnitX} \cdot 10 + \text{UnitY} \cdot 0 + \text{UnitZ} \cdot 0$

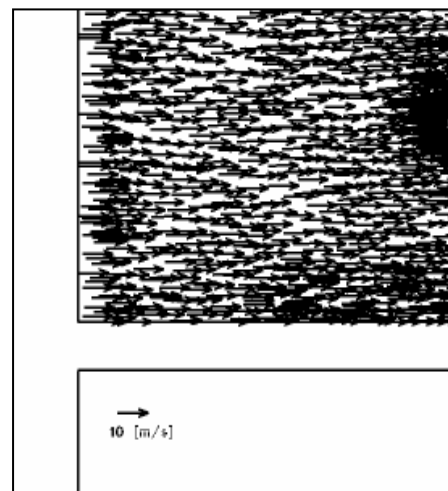
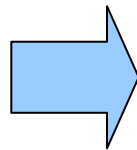
とし、dataset02 側のベクトルスケールを **0.50230** に調整すると、より見やすくなります。

\* もちろん annotation も、設定に応じて 10[m/s] と書き換えます。



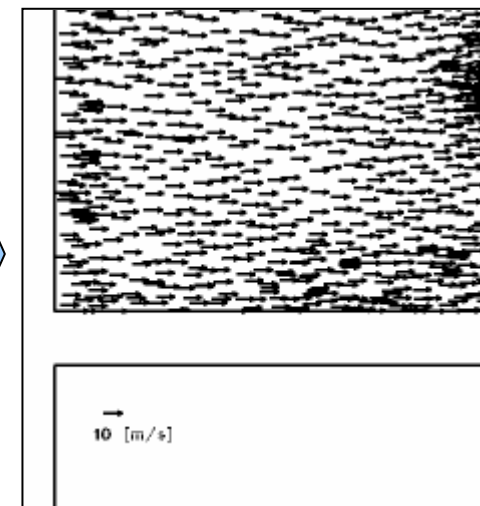
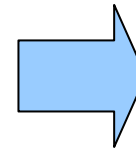
Dataset01 scale : 1

Dataset02 scale: 0.050230



Dataset01 scale : 1

Dataset02 scale: 0.50230



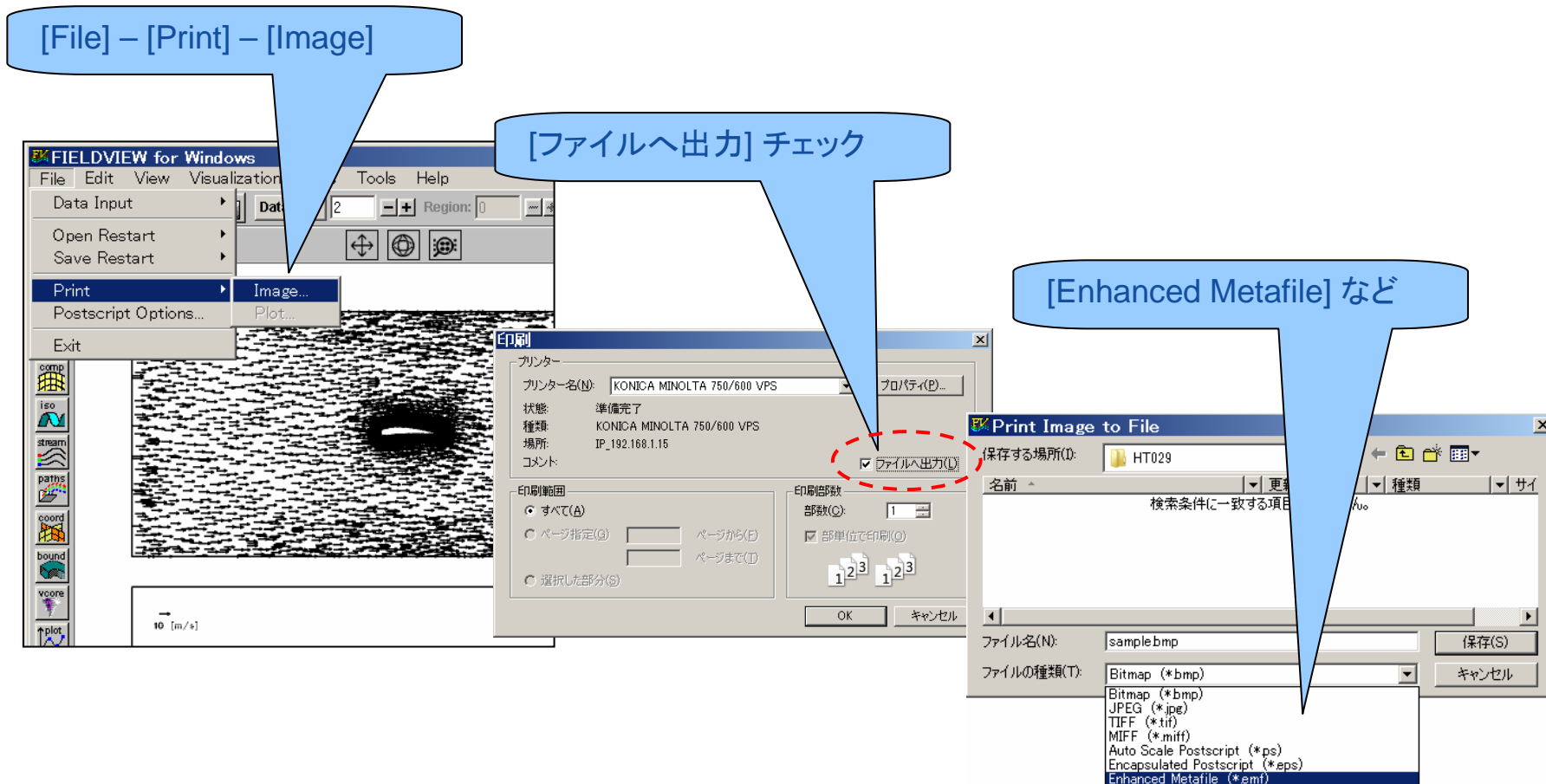
Dataset01 scale : 0.5

Dataset02 scale: 0.25115

## HT029: ベクトルスケールの凡例を作成する

FIELDVIEW

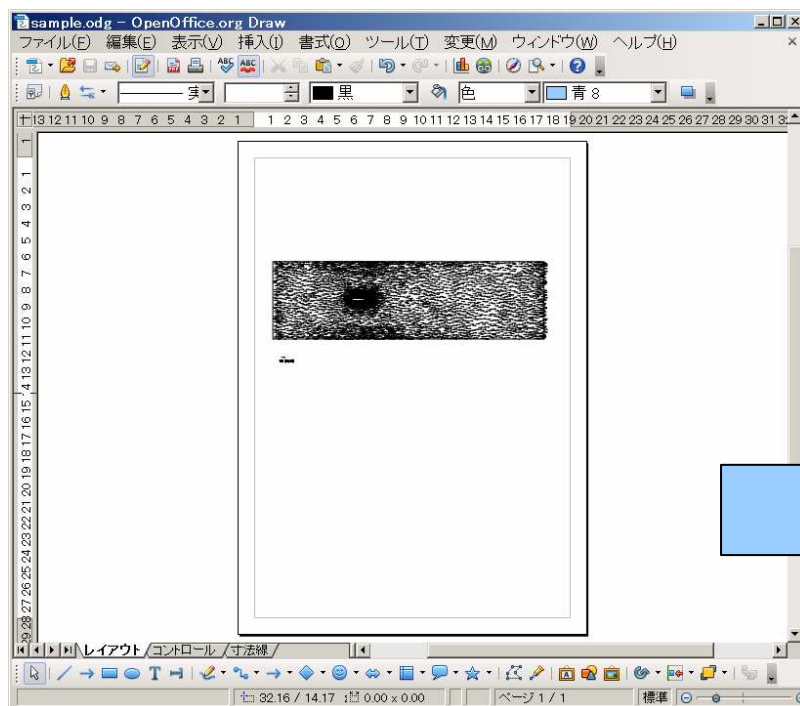
報告書図面などへの加工する場合は、eps ファイルや、emf ファイルなどのようなベクトル形式のデータを使うと扱いが楽になります。



## HT029: ベクトルスケールの凡例を作成する

以下は OpenOffice Draw (フリーのドロー系ソフトウェア) で emf ファイルを読み込んだ例です

\* OpenOffice Draw の操作についてはサポート外ですので、ご容赦ください。



Dataset2 の Outline を削除し、eps 保存した例

MS word に eps ファイルを読み込んだ例

